暮夏

古賀翠虹

鹿毛純光

師範正 鳥飼真理

師範正 宮本虹鶴 槌井末美

成 家 江川悦子

準8級 大深剛石 準三段 染矢修蔵 準師範 浜 田 悦 子 準師範 木下美鳳 五 段 尾﨑和葉

師 範 福 沢 由美子

慕夏 暮夏

倫禮 大學 一書令秘書監 使持節 替完別諸軍 使持節 替完別諸軍事 使持節 替完別諸軍事 使持節 替完別諸軍事 一書令秘書監 一書令秘書監 一書令秘書監 一書令秘書監 一書令秘書監

師 範山田登之

師範正堤 璃 江

師範正 石田 一義 師範正 **白石青桃**  成 家 下川沙舟 成 家 **立 谷 青 霞** 

使持節潛窓州諸軍人持節潛家州諸軍人人持節潛家州諸軍

六 段 **德 朱 鳥**  準師範 飯田須磨 準師範 鎌田敬子 師 範 佐田馨春

師 範 古村青霞 師 範 村 上 嘉 子

使持節潜愈別諸軍魏於中書令秘書監

## 条幅随意優秀作品(7月30日締切分)



龙子里, 大日之司李明十

一个一次一个









準8級 野中恵芳

三 段 川 野 藍 秀

準五段 **平 田 由紀子** 

準五段 田 中 禮 子

準師範 毛 利 奈津子

師 範 小田原 富貴



1 級 佐藤友香



準師範 西 元 静 華



師 **楢 橋 篤 子** 



師範正 **野中静波** 



成 家 **松原華月** 



成 家 **足 立 和 子** 

## は背の花

小4.準初段 大 津 啓 照



小4.二段 岡 﨑 玲 文



小3.3級 土 谷 美 慈



小3.四段 宮 下 真 穂



小2.4級 江田百香



小2.5級小1.準5級岡崎 凜つじもとちなつ

銀河系

中1.準特待生 五 反 咲 羽

流れる雲

中3.特待生 **篠 原 遥 海** 

# 銀河流

中1.準四段 **山田**このか

# 夏の祭り

小 6 .準四段 田 中 謙 多

# 夏の終り

小 6.準五段 小 室 晴 海

# 流れる星

小5.三段 谷 口 理 奈



小 5 . 準初段 **瓜 生 有梨亜** 

其物其物其外 類各 師範正 荒 牧 富 枝 茶圓光曄 矢野 純子 池田白梨 名 類各 類各 五 段 **光 武 和 子** 六 段 **樋 口 祥 子** 六 段 **小川玉燁** 大 瀬 百合恵 荘 田 杏 菜 毛利治代 林田林子 準四段 小 川 枝 風 四 段 白 石 和 子 三段草場 純子 五 段 **廣田清錦** 池田恵泉 大谷淑子 地蔵本 貞 代 大森静 徳 岡 珠 門 類各 3 級 鬼塚咲子 齊藤衣純 野見山 伊森月帆 福 本 真理子 江嶋美樹 阿 部 みちこ 類名

準8級 高橋 さとみ 向井麻美

準7級 畝 川 眞由美 丸山

妙

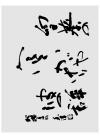
準6級 新竹優子 中 野 真由子

森本君子

## 半紙随 意優秀作品 (7月30日締切分)













師 範 志岐陽華

師 範 髙 山 奈津季

師範正 村 石 節 子

師範正 白 石 青 桃

師範正 宮本虹鶴

石橋芝水













六 段 櫻 井 敏 子

準師範 鎌田敬子

準師範 浜 田 悦 子

森 小 筑

範 亀 井 桂 茜

富松玉圭







三 段 川 **野 藍 秀** 



準四段 吉見昌子



準五段 時 枝 玲 子



準五段 田中禮子



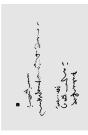
五 段 江 上 由紀子



五 段 竹本 航



準1級 森﨑好子



秋 好 満寿美



準初段 原田純子



初 段 廣畑光翠



準二段 美佐子 南



準三段 山口胡舟



準三段 阿部蕗子

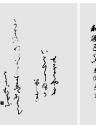
加茂悦 恒 代



準4級 村山絵美



準3級 松尾和子



金 子 志津子



準2級 奥西大地



鏡 澄 子

吉 井 容 子



川上琴舟



坪 根 悦 子

準7級 長澤忠信



7 級 円田琴枝



準6級 田邊美帆



6 級 加 藤 さよ子



準5級 柳原由美

師範正 師範正 和光 中野清泉 川久保由香里 光風性 師 範 三 原 典 子 安部光風 三井千鶴 宮﨑明美 村上紅蓮 準師範 田 中 越 南 準五段 前 川 恒 代 準五段 **江 口 真梨子** 準師範 松 永 美 貂 準師範 飯田須磨 五 段 尾 崎 和 葉 準六段 本 郷 八 蘇 西川 ルミ子 準初段 **河 野 文 子** 宇野美和 北崎安子 佐田理子 金内達子 中 村 三智枝 広瀬理求

書数中

準8級 野中恵芳 準7級 南 静枝 7 級 **尾 形 有季子** 

6 級 緒 方 真紀子

松書松中

準 5 級 **西 育子** 

準4級 4 級 高橋和枝 中根希紗

髙谷倫花

中山琴音

準8級 中河優空

準8級 小 田 孝太朗

さかいゆずか

柳川颯汰

山田こうのすけ

木原 みおん

いなづみ彩音

黒川 ゆい子

松岡 なるみ

鶴 崎 かんな

北 村 心 夢 田 中 玲百奈

4 級 米 澤 桜 雅

百合菜

準3級

京

準1級 進 来 悠 子

1 級家頭美範

準二段 石 井 佑 奈

二 段 永 谷 歩 夢

三 段 **中波 友紀子** 

筒井さわ

山田愛莉

準7級 永野 あおい

山田 そうま

準5級 田村美倖

準4級 坂本遥翔 占 部 日加里

香 原 愛之祐

級 上 田 夏望子

山下紘依

段 高 田 沙耶香

準三段 村崎麻央

準四段 本 田 瑞 季 宮下乃栞

片山咲帆

準7級 江口裕哉

準5級 髙 越 けんと

松田ココ

準3級 甲斐田 彩 芽 山本大斗

準2級 織田恭樺

田中優来

未

堀口未來

矢 野 杏 花

準四段 浅 見 ゆとり

準四段 古賀悠鈴

四 段 原田 さあや

準五段 彩香 堀

海老谷 湊

横山珠卯

松本若菜

宮林陽菜

龍 萌香 汜

可児陽翔

桜

準二段 山口凜桜

## 六

二段 藤岡桃華

橋山沙叶

四 段 吉之元 萌 衣

準五段 小蓑健真 六 室爱

> 五 段 飯室愛梨

準六段 菅 原 忠 輝

準特待生 室 井 さくら

## 六年

準4級 堀田和良

小柳沙紀

怜 奈

準1級 石井怜奈

岩切実香

準初段 北嶋大誓

準二段 入 江 真奈美 阁

岡野亜美

準初段 椛 島 里莉花

段 川﨑 暖

莉 子

藤木莉子

準四段 片 渕 さくら

四 段 永井美祐

六 段 菅 原 捺 美 反 咲

> 準特待生 五反咲羽

矢 野 満理奈

安楽 くるみ

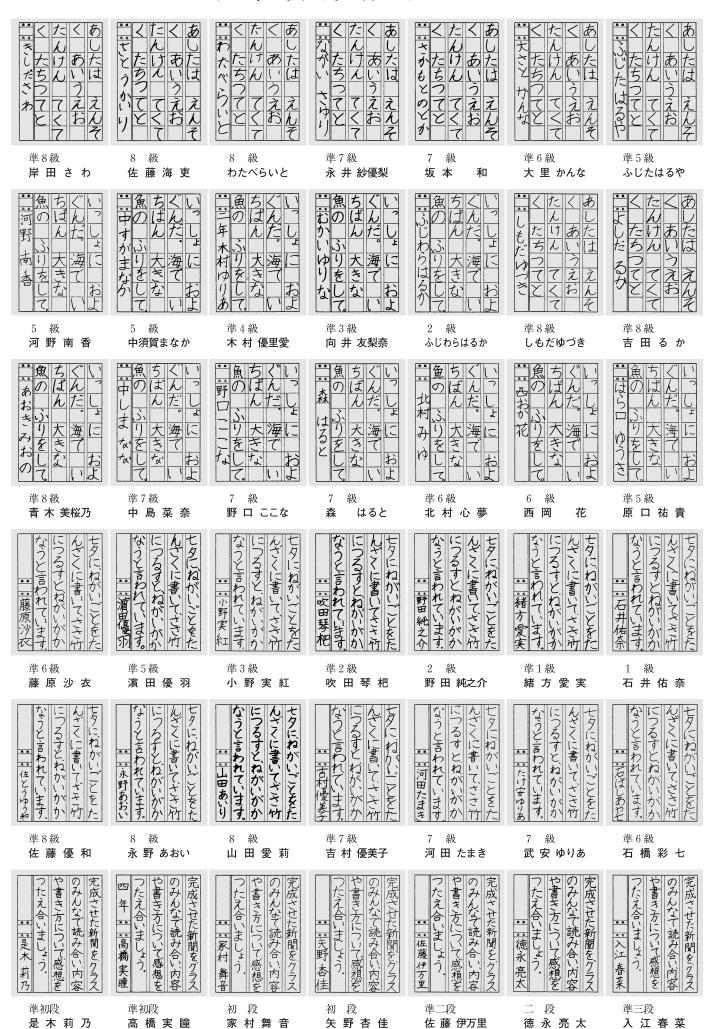
準五段 鹿田万結

五 段 金松瑠依

準六段 森山咲良 横手鈴佳

準特待生 後田万璃

## 硬筆優秀作品(7月30日締切分)



## 硬筆優秀作品(7月30日締切分)

	7	使 筆 優	秀作品	7月30日	締切分)	
□ 三浦結子のみんで読み合い内容で表でましょう。 つたえ合いましょう。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	つたえ合いましょう。 でたえ合いましょう。	のみんなで読み合い内容 のみんなで読み合い内容 でたえ合いましょう。	完成させた新聞をグラス のみんなで読み合い内容 つたえ合いすしょう。	でましょう。 つたえ合いましょう。 でまこ方について、感想を でたえ合いましょう。	では、これでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	のみんなで読み合い内容 のみんなで読み合い内容 でたえ合いましょう.
5 級		3 級 小 山 隼 人	2 級 <b>寺 田 和歌菜</b>	準1級 <b>佐々木 優 羽</b>	1 級 <b>湯 田 佳 士</b>	1 級 重 藤 幸 乃
□ ■新尾さくらこれたしたちは関き手や会話の中に出てくる人などに対して敬意を表すために必要に応じていなす。これを敬語といます。	します。これを敬語といいます。 じてていねいな言葉づかいを で敬意を表すために必要に心 の中に出てくる人などに対し の中に出てくる人などに対し	ります。これを敬語といいます。 します。これを敬語といいます。 します。これを敬語といいます。 します。これを敬語といいます。	しますこれを敬語といいます。 しますこれを敬語といいます。 いたしたちは聞き手や会話	で数意を表すために必要に応 しますこれを敬語といいます。 しますこれを敬語といいます。 しますこれを敬語といいます。 しますこれを敬語といいます。	しますこれを敬語といいます。 しますこれを敬語といいます。 しますこれを敬語といいます。 しますこれを敬語といいます。 しますこれを敬語といいます。	の中に出てくる人などに対し で敬意を表すために必要に応 じてていねいな言葉づかいを しますこれを敬語といます。
初 段	準二段 F尾さくらこ	準三段 <b>白 石 結希子</b>	三 段 谷 <b>口 理 奈</b>	準四段 横 田 る り	四 段 柴 田 真 菜	準五段 <b>緒 方 梨 乃</b>
□ 一番原 実 音の中に出てくる人などに対して敬意を表すために必要に応じていれいな言葉づかいをします。これを、敬語といます。	な言葉でる人ない。	わたしたちは、閉き手や、会話の中に出てくろ人などに対してでいれいな言葉でかいを じてていないな言葉でかいを しますこれを敬語といいます。	の中に出てくろ人かどに対して 次 意を表すために必要に応じてていれいな言葉づかいをします。これを 敬語といます。	の中に出てくる人などに対し で敬意を表すために必要に応 しますごれを敬語といいます。 しますごれを敬語といいます。	の中に出てくる人などに対し の中に出てくる人などに対し ります。れを、敬語といいます。 します。これを、敬語といいます。	の中に出てくる人などに対し て敬意を表すために必要に応 でな意を表すために必要に応 します。これを敬語といいます。
	⊭6級 <b>ゑ 原 実 音</b>	6 級 <b>奥村夏帆</b>	準 5 級 <b>堀 友里愛</b>	準4級 八田 乃々華	2 級 藤 原 風 花	準1級 <b>酒 盛 美瑳希</b>
準二段		はおかしいと思うからです。 しむのも学級文庫の役割でま んがだからといって除かれるの とがだからといって除かれるの 段本 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はないをといってないれるの。 はないをといってないれるの。 といってないれる。 といってないない。 といってないない。 といってないないない。 といってないない。 といってないない。 といってないない。 といってないない。 といってないないない。 といってないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 といって除かれるの といっと発文庫の役割でま 神 たがだからといって除かれるの と 神 たがだからといって除かれるの と 神 た が た か に と に と に と に と に と に と に と に と に と に	はおかしいと思うからです。 しむのも学級文庫の役割で、まんがだからといって除かれるの 投割で、まながだからといって除かれるの 投割で、まながだからといって除かれるの 投割で、まながしいと思うからです。 なおかしいと思うからです。 なおかしいと思うからです。 なおかしいと思うからです。 なおかしいと思うからです。 なおかしいと思うからです。	学級文庫にはまんがを置いて、 いと思いますさまざまな本に親 いと思いますさまざまな本に親 理 しむのも学級文庫の役割でま 五田 田	はおかしいと思うからです。 しむのも学級文庫の役割でまんがだからといって除かれるの 段田 からです。 五石
	はおかしいと思います。	デ級文庫にはまんがを置いてい しむのも学級文庫の役割でま んがたからといって除かれるの はおかしいと思うからです。	1 いと思います。さまざまな本に親しむのも学級文庫にはまんがを置いて、 しむのも学級文庫の役割で、ま はおかしいと思うからです。	学級文庫には、まんがを置いてい はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。 はおかしいと思うからです。	学級文庫にはまんがを置いて、 りむのも学級文庫の役割でまる しむのも学級文庫の役割でまる。 はおかしいと思うからてす。	学級大庫にはまんがを置いてい 学級大庫にはまんがを置いてい 学級大庫にはまんがを置いてい
6 級 須田美遙 7	4 級 5 井 怜 奈	準 2 級 <b>菊 地 菜々花</b>	2 級 山 下 紗 輝	準1級 井 澤 心 彩	1 級 吉 <b>岡 真 愛</b>	初 段 川 畑 と わ
	胸にしまい込んだ。 おった。そんな後ろ なり、おった。そんな後ろ	手紙を畳んでそって対筒に戻した。 手紙を見つけたことは誰にも言わ なかった誰かの大事な場所に勝手 に踏み込んでしまった。そんな後ろ のたさを自分の胸にしまい込んだ。	■ ■ 松井 美月 ・ 本然を呈んでそうと対荷に戻した。 ・ なかった。誰かの大事な場所に勝手なかった。誰かの大事な場所に勝手なりでしまった。そんな後ろ	手紙を畳んでそって封筒に戻した なかった、誰かの大事な場所に勝手 なかった、誰かの大事な場所に勝手 めたさを自分の胸にしまい立んだ。	手紙を畳んでそっと封筒に戻した かった誰かの大事な場所に勝手 なかった誰かの大事な場所に勝手 かたさを自分の胸にしまい込んだ	手紙を畳んでそっと封筒に戻した。 手紙を見つけたことは、誰にも言わ いたでき自分の胸にしまい込んだ。 めたさき自分の胸にしまい込んだ。
準六段 <b>上 岡 麗 未</b>	た 段 <b>黒 木 七 海</b>	六 段 <b>木牟禮 佳 乃</b>	準特待生 松 井 美 月	準特待生 <b>原 田 啓 希</b>	特待生 中 嶋 来 維	特待生 川 村 茉奈美

## 硬 筆 優 秀 作 品 (7月30日締切分)

		硬 筆 優	秀作品	7月30日	締切分)	
手紙を見っけたことは能も言わなかった。誰かの大事た場所に勝うなかった。これできる人で、そんな後ろのたさを自分の胸にしまら込んだ。	手紙を見んてそっと封筒に戻した。 手紙を見んけたことは、誰にも言わなかった、誰かの大事な場所に赚子 に踏み込んでしまった。そんな後ろ のたさを自分の胸にしまい込んだ。	今紙を見ってそうと対間に戻した かった誰かの大事な場所に勝手なかった誰かの大事な場所に勝手 なかった誰かの大事な場所に勝手	手紙を畳んてそっと対筒に戻した。 がかった誰かの大事な場所に勝う いたさを自分の胸にしまい込んだ。 かたさを自分の胸にしまい込んだ。 かたさを自分の胸にしまい込んだ。	手紙を見てけたことは確にも言わなかった。誰から大事な場所に勝手なかった。これでは後ろのたさを自分の胸にしまい込んだ。のたさを自分の胸にしまい込んだ。	手紙を見つけたことは、誰にも言わなかった、誰かの大事な場所に勝手なかの大事な場所に勝手ないたさき自分の胸にしまい込んだ。	手紙を畳んでそっと封筒に戻した かかった。誰かの大事な場所に勝手 に踏み込んでしまった。そんな後ろ のたさを自分の胸にしまい込んだ。
準四段 吉 永 桃 子	四段中原 楓	準五段 <b>百 留 実 和</b>	準五段 <b>渡辺 隼</b>	準五段 <b>勝 野 夢 葉</b>	五段 山口舞桜	準六段 <b>中 岡 俊 介</b>
● 本本山 翔太 ・ 本本を自分の胸にしまい込んだ。 のたさを自分の胸にしまい込んだ。 のたさを自分の胸にしまい込んだ。 のたさを自分の胸にしまい込んだ。 ・ ながった誰かの大事な場所に勝手	字紙を見つけたことは誰にも言わなか。た、誰かの大事で場所に勝子 に踏み込んでしまった。そんな後ろ のたっと自分の胸にしまい込んだ。	ま紙を置んてそ、と対質に戻した をかった、誰かの大事な場所に様子なかった、誰かの大事な場所に様子なかった。まった。そんな後ろ	手紙を見んでそっと封筒に戻した。 手紙を見つけたことは誰にも言わなかった。誰から人でしまった。そんな後ろいたさを自分の胸にしまい込んだ、勝子	手紙を見っけたことは、誰にも言わなかった、誰かの大事な場所に勝手なかった。誰かの大事な場所に勝手がたさを自分の胸にしまい込んだ。	子紙を異んでそこ対質に戻したがかた、誰かの大事な場所に勝うなかった、誰かの大事な場所に勝うなかった。誰から大事な場所に勝うなかった。ことでは、誰にも言わなかった。	す紙を見つけたっとは誰にも言わなかった。誰かの大事な場所に勝うなかった。誰かの大事な場所に勝うながった。誰なんでしまった。そんな後ろめたさを自分の際にしまい込んだ。
5 級 木山翔太	準 4 級 實 <b>藤 礼</b>	初段 <b>畑 心涼</b>	二段的場別麗太郎	二 段 <b>内田 茉奈美</b>	準三段 佐藤陽奈	三段 三隅 鈴香
書	大ながら知らないことの多さに取じ 初のり数えられたパッケーシの水玉 師 下 初のり数えられたパッケーシの水玉 師 下 を 下	書 のからの質のが扱われましたいます。 は現からの質のが扱われましたは、 大丁文学で共紀で取り、はの話をを滅び、 人丁文学で共紀で取り、はの話をを滅び、 人で生活を成するといるでは、 人で生活を成するといるでは、 人で生活を成するといるでは、 人で生活を成するといるでは、 が現ましていますだ。 「他」 「他」 「他」 「他」 「他」 「他」 「他」 「他」 「他」 「他」	大き、子どもの頃よく飲んだカルビスが、「九.元年のい月と日の発売だとが、「九.元年のい月と日の発売だとが、「カージの水五の水五の水五のい月と日の発売だとが、「大きのい月と日の発売だとが、「カージを大きない」との多さに恥じれながら知らないことの多さに恥じれながら知らないことの多さに恥じれながら知らないことの多さに恥じれながら知らないことの多さに恥じればない。	世 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	大る・子どもの頃よく飲んだカルビスが、一九・九年の七月七日の発売だとが、一九・九年の七月七日の発売だとを表すことも、	様様は天の川の星々を表すことも 節塚が、一人、九年の七月七日の発売だと 初めて教えられたバッケージの水玉 範 はないことの多さに恥じ 上 はないことの多さに恥じ 雪
が、	田田 (1987年) 「全田 (1987年)」 「日頃 (1987年)」 「日頃 (1987年) 「日頃 (1987年)」 「日頃 (1987年)」 「日頃 (1987年)」 「日頃 (1987年)」 「日頃 (1987年)」 「日前 (1	模様は天の川の星々を表すことも、 が、九一九年の七月七日の発売だとが、九一九年の七月七日の発売だとない、カーカーの星々を表すことも、	様様は天の川の星々を表すことも、 が、一九一九年のは月七日の発売だと 初のて教えられたパッケーシの赤だと を表すことも、 は様は天の川の星々を表すことも、 は様は天の川の星々を表すことも、 は様は天の川の星々を表すことも、 は様は天の川の星々を表すことも、	様様は天の川の星々を表すことも、 一大の、子どもの頃よく飲んだカルビスが、一九一九年の七月七日の発売だといれたパッケーシの水玉	我ながら知らないことの多さに恥じが、一九一九年の七月七日の発売だとが、一九一九年の七月七日の発売だとが、一九一九年の七月七日の発売だといった。 マー・ション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	我ながら知らないことの多さに恥じれながら知らないことの多さに恥じれる。子どもの頃よく飲んだカルビスが、人九一九年の十月七日の発売だと初めて教えられたパッケージの水玉
作の方式 1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、	四段	年	五 段	恵 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	大 段	大 段
鹿嶋 ひかり	宮本隆子	山口凜華	横地文華	徳永直恵	村上嘉子	黒 岩 穂奈美
様様は天の川の星々を表すことも、 様様は天の川の星々を表すことも、 『二九年の七月七日の発売たとが、元九年の七月七日の発売たとが、元九年の七月七日の発売たとりれたパッケージの水玉	大のインションのでは、いこの多さにない。 が一九一九年の七月七日の発売だと が一九一九年の七月七日の発売だと が一九一九年の七月七日の発売だと は後は天の川の屋でを乗すことも、 は後は天の川の屋でを乗すことも、 はいいからないことの多さにない。	大会子どもの頃よく飲んだカルビス か一九一九年の七月七日の発売だと が一九一九年の七月七日の発売だと が一九一九年の七月七日の発売だと	模様は天の川の屋をを表すことも、 様様は天の川の屋をを表すことも、 は、一九二九年の七月七日の発売だと が、一九二九年の七月七日の発売だと で、一九二九年の十月七日の発売だと	及る・子どもの頃よく飲んだカルビスか、一九一九年の七月七日の発売だとが、一九一九年の七月七日の発売だとが、一九一九年の七月七日の発売だとが、一九一九年の七月七日の発売だといる・三十十十年の七月十十年の大手に取り、100円のでは、10	日頃、かの勢の、似の代とうだされ、 理 忠の情を前の明をとが動かで実 あるの情を前の明をとが動かで実 あるの情を前の明をとが動かで実 あるの情を前の明をとが動かで実 あるん 人が変にある しょうなぶしょく かんしょう はい しょく はい はい しょく はい はい はい しょく はい はい しょく はい	大る・子どもの頃よく飲んだカルビス 人る・子どもの頃よく飲んだカルビス 初めて教えられたバッケージの水玉 複様は天の川の星々を表すことも。
1 級 久々宮 憂 華	準初段 河原智恵	準二段 田 中 <b>葵</b>	二 段 小袋 ひとみ	準三段 井 上 伊津美	準三段 井 上 玲 秀	三 段 二 木 翼
が成の内をなってとうございる。 ・ は 成 の の を なってとうございる。 ・ は 成 は かかって 次 から、 ・ は 成 は かって 次 から、 ・ は 成 で から、	**	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	大ら子どもの頃よく飲んだカルビスが、一九一九年の七月古の発売だと初めて教えられたパッケージの水玉初めて教えられたパッケージの水玉	スる・子どもの頃よく飲んだカルビスか、一九一九年の七月七日の発売だとが、一九一九年の七月七日の発売だとが、一九一九年の半月七日の発売だとが、一九一九年の半月七日の発売だといった。	大ち子どもの頃よく飲んだカルビスか、九一九年の七月七日の発売だと初らないことの多さに取じれなが、九一九年の七月七日の発売だとが、九一九年の七月七日の発売だと	大る子どもの頃よく飲んだカルニスが、一九一九年の七月七日の発売だとが、一九一九年の七月七日の発売だと初めて教えられた、パッケージの水玉機様は天の川の屋。を表すことも
8 級 上 <b>野 慈 苑</b>	準 7 級 <b>森 彩 乃</b>	準6級 貴島里美	6 級 福 島 れい奈	5 級 松 下 真 子	準 4 級 <b>河 野 由</b>	4 級 <b>梅 津 恍 菜</b>